読み上げ省略で負担軽減

◎…水産政策審議会資源管理分科会は、すべての議事を終了するまでに長い時間を要する。漁獲可能量（TAC）

管理の対象魚種が今後も拡大すれば、審議内容はさらに増える。時間短縮に向け9日の分科会から、諮問文および答申書の読み上げを省略すること

とにした。山川卓分科会長（東京大学大学院准教授）は前回の答申書で、国際資源だけで15も読み上げており、時間だけでなく体力的な負担もあつたようだ。「効率化できるということで非常に喜ばしい」との本音を漏らした。

記者席

◎…横浜丸魚俵が初めて実施した種苗放流イベントに全面協力した神奈川県栽培漁業協会。現場に立ち会った今井利為専務は、県内で行われて

いる種苗生産・放流の「運営が非常に厳しい」理由に、ほかの都道府県と違い「松沢成文県知事時代に行政からの補助金をすべて打ち切られ、完全な受益者負担になったこと

がある」と説明する。だからこそ、漁業の現場と消費者を結ぶ市場流通を担う「横浜丸魚の皆さんが関わってくれたこと」で、われわれ協会の取り組みへの理解が深まっていくことになれば」と支援の輪が広がるきっかけとなることに期待していた。

理解の深化に期待寄せる